



## Empowered JAPAN 緊急ウェブセミナー

Empowered JAPAN 実行委員会はテレワークをはじめとする働き方改革や学び直しを通じた「いつでもどこでも誰でも、働き、学べる世の中へ」をコンセプトに、2018年に発足しました。東京圏および地方都市におけるテレワーク啓蒙イベントをはじめ、多くの自治体や協力会社と共に企業・個人向けテレワーク研修を実施してきました。この度の新型コロナウイルス感染拡大と2020年2月25日の政府基本方針に含まれた「テレワーク推奨」の呼びかけを受け、全国の組織や個人がテレワークを早期に実施するため、実践的な情報をお伝えするための緊急ウェブセミナーを2020年3月17日より連続的に無料開催しています。

### カテゴリ：

行政・医療・教育機関向け

開催日時：2020年4月28日

### 講師：

日本マイクロソフト株式会社  
モダンワークプレイス統括本部  
ソリューションスペシャリスト  
鈴木 慎也氏



2000年に日本マイクロソフトに入社、Office365やSurfaceなどの製品ソリューション営業として幅広い業種を担当。近年は、教育に関わり、全国の大学や教育委員会、学校へ幅広くICT活用の支援をしている。本業に加えてプロボノ活動もっており、震災復興に関わるNPOとプログラミング教育の実践にも取り組んでいる。

## Microsoft Teams を利用してこれから始める

### オンライン授業のノウハウ

Teamsは、マイクロソフトが提供するOffice 365に含まれるサービス（アプリ）です。パソコンやスマートフォンによるオンライン会議やファイルの共有ができます。なお、学校でTeamsを利用される方は用語を「会議」から「授業」とおきかえてご理解ください。オンライン会議は1つの仮想部屋（クラス）に同時に最大250名まで参加可能で、そこでの情報は参加しているメンバー（教師と生徒）しか見ることができません。卒業式など大規模なオンラインイベントを配信したい場合は、会議ではなく1万人までが視聴できる「Teams ライブイベント」機能を使います。

現在、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、多くの学校が休業となり、オンライン授業が模索されています。マイクロソフトが提案するツールがこのTeamsなのです。

日本マイクロソフトのソリューションスペシャリストとして、多くの学校でのオンライン授業の導入・展開を支援している鈴木氏は、同社による教育機関向けの緊急支援内容をまず説明します。それによれば、Teamsを活用したオンライン授業の支援策は主に4つです。

「1つ目は、Office 365の教育機関向けライセンスであるA1（試用版）の無償利用の拡大。今までの評価版は利用できる人数と期間に制限がありましたが、その人数と期間が、先生5000人と生徒5000人が6か月利用できるまで拡大し、その期間中にWebサイトから電子申請して承認されることで、必要なユーザー数だけ無期限で利用できるようになりました」（鈴木氏）

支援策の2つ目は、Office 365の設定や利用に関する技術的な質問を遠隔で支援することです。これまでは有償ライセンス購入者向けのみでしたが、今は評価版ライセンスでも、スペシャリストからTeams導入サポートなどを受けることができます。

3つ目は、Surface Book2（教師向け）とSurface Go（生徒向け）の無償貸与です。「現在、多くのお問い合わせをいただいています。貸与できる台数は限られていますが、ぜひご相談ください」（鈴木氏）

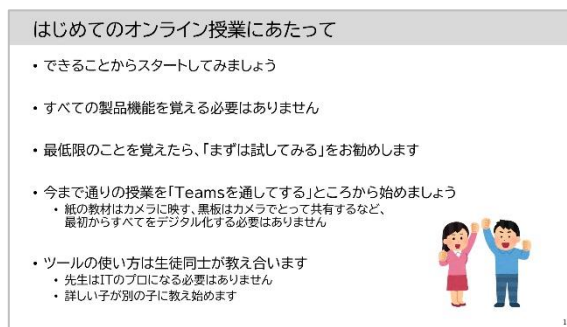
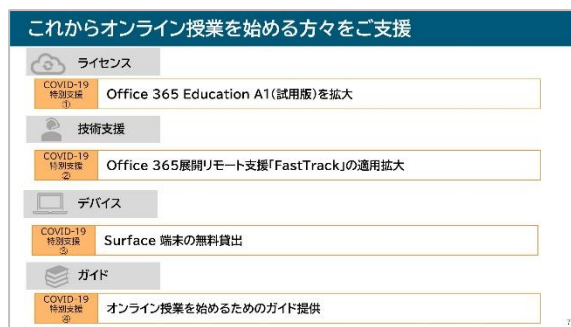
TeamsとSurface Goなどのデバイスは揃えても、どうやってオンライン授業を始めたらいいのかわからない――。そんな教育機関向けには「Microsoft Education Center」というWebサイトを用意しました。先生向けのトレーニング動画や資料、オンライン授業をする際のTeams活用ガイドを閲覧することができます。これが4つ目の支援策です。

なお、支援の最新情報に関してはWebサイト「[セキュアリモート相談窓口](#)」にまとまっています。特に「[教育機関のお客様](#)」の項目をご覧ください。

## Empowered JAPAN 実行委員会 緊急ウェブセミナー 講演レポート

では、実際に Teams を使ってオンライン授業をしてみましょう。鈴木氏は、最低限のことを覚えたら「まずは試してみる」ことが大切だと伝えます。

「Teams の機能すべてを覚える必要はありません。黒板や紙の教材をカメラで映して見せるだけでもかまいません。生徒と一緒に試しているうちに、『この機能はこんな風に授業に使えるな』とわかってきます。ツールの使い方については生徒同士が教え合うものです。先生が IT のプロにならなくても問題ありません」（鈴木氏）



オンライン授業の初日に最も多いトラブルは、「インターネットにつながらない」「ID やパスワードを忘れた」という初歩的なもの。それを防ぐための周知を徹底しておき Teams に入ることができれば、後は比較的スムーズに授業することができます。なお、生徒が携帯回線によるネット接続をして不用意な通話料がかかってしまうことがないように注意してください。

「先生にも生徒にも有線 LAN もしくは無線 LAN による接続を強く推奨します」（鈴木氏）

普段の授業準備に加えて教師がやっておくべきことは、Teams を起動させて、チーム（クラス）を作成し、メンバー（生徒）を追加しておくことです。予定表に授業を事前に予約しておくこともできます。

当日、教師は生徒よりも先にクラスに入っておきます。カメラとマイクが ON にして、参加する生徒を確認し、生徒のほうはミュート（マイク OFF）にしておきます。「チーム全体の下に、チャンネル（トピック）を作成することで、話し合う場所をテーマごとに分けることができます。例えば、『先生からのお知らせ』などを作って、クラス全員が見るようにするといいでしょう」（鈴木氏）

生徒とのコミュニケーションは、チャットウィンドウを使います。キーボード操作に慣れていない小学生などには、はい→1、いいえ→2 というように数字で答えられる質問形式にするといいでしょう。また、チャットウィンドウは音声がかえれないなどのトラブル時にも活躍します。「おすすめは『いいね！』の活用です。例えば、世界の川に比べて日本の川の特徴は？という質問をしたとき。先生がチャットに『長い』、『短い』、『急』という3つのスレッドを作れば、生徒はいいね！で回答できます。また、誰がいいね！を押したのかもわかるので、出席表の代わりに使うことも可能です」（鈴木氏）

生徒のほうはより簡単に授業に参加できます。最初はミュートにしてから参加ボタンを押し、教師の画面を「ピン留め」機能で大きく映し出すこと。そして、チャットウィンドウを表示するだけです。

「オンライン授業を実施する際は、いくつかの検討事項が考えられます。生徒が使う端末とネットワーク環境を確保できるか、生徒同士の1対1のチャットや音声通話機能を制限するか、授業内容を録画するか、などです。ただし、基本方針を定めたら、まずは試してみることをお勧めします。事前に懸念するような事態にはならないのが現実です」（鈴木氏）

鈴木氏によれば、オンライン授業のあり方に「正解」はありません。教師も生徒もしっかりくる授業ができればそれはすべて正解なのです。子どもたちの学びを止めないために、できることから始めたいものです。

